学校番号（２４）豊橋市立（ 植田小 ）学校

令和２年度　学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和３年２月２６日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
主体的・対話的で深い学びにより、確かな学力と健やかな体を育成する	言語活動の充実	言語に関する能力を高め，思考力，判断力，表現力等の育成を効果的に図るために，それぞれの教科の特質に応じた言語活動（自分の考えを話したり書いたりする活動，目的を明確にした交流活動）を意図的に行う。	A	A	・国語部会、算数部会で問題解決的な学習の授業について研修を深めた。 ・漢字の学習は、意味がわかる語彙指導であるという認識が定着してきた。 ・意味調べやねらいをもった正確な音読「意味が分かって読めること」を大切にする授業への転換が図られつつある。	A	・ＩＣＴ機器、教材提示、板書等を工夫していた。 ・コロナ禍でも工夫して、地域へ出たり、出前授業等を工夫して行い、実体験に基づいた学習展開を心掛けている。	・問題解決的な学習について、授業改善に向けて授業モデル案をもとにＯＪＴを活用して研修を深める。 ・タブレット端末の生かし方を工夫する。 ★子どもたちの学力が向上するような授業づくりをめざす。
	学ぶ意欲の向上	子どもの「できる・わかる」を引き出すとともに，問題解決的な学習を実践する。	B					
互いの立場を理解し，温かな気持ちで関わり合える集団づくりに取り組む	孤立する児童のいない温かな学級、集団づくり	子ども同士が,お互いのよさを認め合う活動やグループ活動など，人間関係づくりを目的とした実践に計画的に取り組む。	A	A	・「いなほトーク」の意義を全職員共通理解のもとに実施。相手の顔を見て話す、聞くことを徹底指導した。 ・「道徳ノート」を全校で統一して使用。ふり返りで自己の変容を評価することも全職員共通理解できた。	A	・道徳では、児童の心を打つ資料提示を研究するとともに、板書の掲示を蓄積し、変容を自覚できるようにしていた。 ・児童と目線を合わせて対話を行っている。	・「自尊感情」や「自己肯定感」を育むための授業づくりや行事を計画する。 ★教師と児童の人間関係の構築がとても重要。今後も児童とのコミュニケーションを大切にして子どもと接していく。
	思いやりや助け合いの心を育てる道徳教育の推進	児童が自分をとりまくさまざまな人々の存在に気づき，互いを認め合いながら，人間愛を根底とした具体的な行為の意義を実感できるような道徳授業を実践する。	A					
家庭や地域との連携を密にし、安全安心で開かれた学校運営を推進する	地域ぐるみの教育システムの構築	地域教育ボランティアや保護者，地域住民，地元企業等を活用した授業や体験活動を実践する。	B	A	・地教ボ「植田いなほ会」登録者 100 名超。 ・ほぼ全ての学年で、地教ボと関わる授業を展開。 ・地震、火災、津波、不審者の避難訓練実施。 ・食アレ対応や心肺蘇生法についての現研実施。 ・付添下校。朝の立番実施。	A	・読み聞かせや地元企業による出前授業など、充実した様子を学校のお便りで知ることができた。 ・６年生の水防災への取組も素晴らしいし、不審者対応の訓練もされており、とてもよい。	・「安全教育の手引き」をしっかり活用し、学校の危機管理を高め、子どもたちが安心して学校生活が送れるように努める。 ★地域教育力をさらに活用していくとともに、新たな人材を発掘していく。
	非常災害時や学校生活における判断力・行動力の育成	「安全教育の手引き」を活用し，緊急時の対応や生活安全についての理解を深め，自らのいのちを守ったり，けがを防止したりするための適切な判断力・行動力を養う。	A					
教育公務員としての意識を高め、組織人として学校を支える教師集団を目ざす	教師の授業力向上	「主体的，対話的で深い学び」の実現に向けて，組織的，計画的に授業改善に取り組む。 視点を明確にした研究協議会を積み重ねる。	A	A	・各学級常設のＯＨＣを活用し、視覚的支援によりわかりやすい授業を目指した。 ・行事や教材研究について、ミドルリーダーが若手の相談にのる学校文化が醸成されている。	B	・授業がわかりやすく、教師と児童、児童相互のコミュニケーションがよくとれている。 ・考える時間を確保している。	・植田小の授業モデル案を基に授業研究を積極的に行う。 ★現職研修として、研究授業だけでなく、ベテランの教員からプログラミング教材他、実技研修等の機会を設定する。
	教員の多忙化解消	初任者や経験の浅い若い教員をはじめ、一部の教員に過重な負担がかかることがないように，適切な措置を実施する。	B					

【自己評価　　Ａ：十分に達成されている　Ｂ：概ね達成されている　Ｃ：あまり達成されていない　Ｄ：ほとんど達成されていない】
【総合評価　　自己評価をもとに 上記のＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ で評価】
【関係者評価　Ａ：適切である　Ｂ：概ね適切である　Ｃ：あまり適切ではない　Ｄ：適切とは言えない】